

「第3回和歌山県立自然博物館検討委員会」議事概要

- 1 日時 令和7年3月4日（火） 13:30～16:30
- 2 場所 和歌山県庁南別館6階 604教育委員会会議室
- 3 趣旨 専門的な知見を踏まえ、県立自然博物館の今後のあり方を検討する。

4 委員

氏名	所属・役職等
コイケ ノブアキ 小池 信昭	和歌山工業高等専門学校 教授
○ サルワタリ トシロウ 猿渡 敏郎	東京大学 大気海洋研究所 助教
欠 タカス ヒデキ 高須 英樹	和歌山大学 名誉教授
ナカエ タマキ 中江 環	太地町立くじらの博物館 副館長
◎ マナベ マコト 真鍋 真	国立科学博物館 副館長
ヨシマツ トシタカ 吉松 敏隆	元高等学校長

（五十音順、◎委員長、○副委員長）

- 5 協議内容 議題：①提言書の構成について
②和歌山県立自然博物館の今後のあり方について
（1）施設 （2）展示 （3）防災・減災 （4）収蔵庫 （5）管理運営、その他
※検討委員会での主な意見については、資料1のとおり

①提言書に係る協議・確認内容

議題内容	主な協議・確認内容
提言書構成案及び 提言内容について	・ 提言書の構成確認 ・ 提言書内に「博物館の使命」を追記 ・ 収蔵庫に関する課題は「収蔵環境の改善と施設の不足」とする ・ 防災における検討項目は「防災・減災」とする ・ 「各項目における検討結果」で使用する文言等についての協議・確認

②検討委員会の主な意見（既存施設活用も含めた今後のあり方）

議題内容	委員から出された意見
(1) 施設	・ 例えば水槽が非常に劣化していて、それを維持できず、公開し続けられないとなると、予算がない私立の館だったら、水族館部分を閉めるというのはあり得ると思う。万が一、そういったことになると、この自然博物館としては成り立たないと思う。
	・ 県教育委員会の教育振興基本計画や大綱などを見ても、学校教育も含め、よく「和歌山らしさ」「和歌山らしい教育」という言葉が出てくる。自然博物館は、まさに「和歌山らしさ」を出している施設だと思うので、「和歌山らしさ」を全体のトーンとして出してほしい。
	・ 来館者の多くが水族館目当てで来ていると思う。年間約10万人の来館者のうち、かなりの人数が水族館目当ての中で、大水槽をなくしてしまった場合、来館者数の維持は厳しくなると思う。お金をかけて何か改修して来館者減となると、県としてかなり困った事態になるのではないかと、ものすごく心配しているところではある。 ・ 取水管の老朽化がかなり進んでいて、取水管そのものを作り直さないといけないような話を聞いている。バックヤードを見ても、水を抜いてよく洗って塗り直す程度で済むのかなというぐらいの厳しい現状である。博物館の職員から意見聴取されて、待たなしの状態なんだということを提言書の中に入れて、強く県に訴える必要がある。

②検討委員会の主な意見（既存施設活用も含めた今後のあり方）

議題内容	委員から出された意見
(2) 展示	・お金をかけずに変えていくことになる、やはり大水槽の維持は難しい。もし廃止した場合、大きなスペースをどう使うかであるが、例えば映像展示や没入感のあるシアターにして、ワカヤマソウリュウも加えた進化を辿るようなストーリーにした映像展示であれば、比較的安価であり、展示のリニューアルや新しい情報に更新していく形で使っていける。初期投資は大きくても、水槽を維持するコストを考えると、比較的安価でやりやすいのではないかな。
	・展示室のストーリーの話は、水族館と博物館が二極化してしまっているが、これはまだ大金をかけなくても、工夫次第で知恵を出せば改善できる面はあると思う。学芸員の方に改めて工夫して案を出してもらい進めていくのが現実的ではないかな。
(3) 防災・減災	・今まで増築や建て替えした場合の津波避難対策のため、3階を津波避難施設にしたいとの話をしてきた。建て替えができない場合を考えると、県の津波浸水想定では、海南市は津波高1mになるのに最短で39分、最大の津波高が8mとなっている。最初の3分ぐらいは揺れている中、館にはエレベーターや屋上への階段がないので、車椅子の方や指定避難場所に逃げられない方は避難が難しいので、3階部分を作ってほしいというのと言えと思う。 ・杭を打っていて、揺れで倒壊するまででないのであれば、リニューアルする場合は、来館者等のために展示物の固定などに気を使ってほしい。
(4) 収蔵庫	・まずは取水管と水槽の大規模改修をし、その上に展示の充実をしていく。収蔵庫は予算もあるので、どこまで手が回るかは想像できないが、貴重な標本を多数持っている、水族館関連機能の改修工事中は、あくまでも応急的な処置として、本館でない収蔵施設のところの空調を整えて、そこに移設するなどの手立てもあるのではないかな。

②検討委員会の主な意見（既存施設活用も含めた今後のあり方）

議題内容	委員から出された意見
(5) 管理運営、 その他	・水族館と博物館が一緒にあるということを超える教育的意味合いや、社会教育施設としてのあり方というのが思いつかないぐらい非常に大きいので、ぜひ存続してほしいと強く思う。お金がかかることは重々承知しているが、その部分は守りつつ、さらに濃い内容のストーリーを作り、魅力あふれる自然博物館にしてほしい。
	・山から海へといったストーリーの現状は最低限維持できるようにしてほしい。
	・現実的なことで早々と決着してしまうと、今まで県の行政でうまくいったという記憶がない。結局はいかにその施設なり、館が県民にとって大事なものであるかというところがまずなければならない。だから私が言った和歌山らしさというのもその一環だが、せっかく提言書ができるのだから、そういう意気込みでぜひ棟が上がっていけばと思う。
	・今まで議論してきた館の実現に向けて何とか頑張してほしい。緊急性が高いのが水族館の改修だが、それで終わってしまったては困る。応急処置なら応急処置で、やはり館をどうするかというのは、提言書に合う姿に少しでも近づけるように、最大限努力してほしい。
	・和歌山の魅力は様々あるが、海から山、空から山から海というような繋がりや歴史、その空間の中に生かされている私達とか、過去や現在、未来があり自分たちの存在を感じられる。それはまさに、生物多様性が周りにあるからこそ、私達人間がここにいられるという巡り合わせがあるから実現している。そういったことを深く理解し、感じられることが、これからの世界を生きていくという、心の中の柱になっていく。それを博物館、水族館そして学校教育を含め、しっかりと伝えていくことが、博物館がリニューアルした際、それが実現されていくということが、総合的に和歌山県の魅力に繋がっていくと感じている。魅力がたくさんある場所だと思うので、ぜひ、今回提案する提言書の内容の一つでも多く、100%もしくはそれ以上達成できるような形で、ご尽力いただきたい。